

福マネット

<発行日>
令和元年5月1日

第18号

「福マネット」とは「福島のカマネジャーのネットワークを深めていこう!」という思いが込められています。

巻頭言



一般社団法人 福島県介護支援専門員協会 会長

千葉喜弘

今年、平成最後の年から新元号に変わる大きな歴史の節目となります。本紙が届いている頃には、「令和」のスタートとなります。平成時代の本会のこれまでの歩みを振り返ってみますと、介護保険がスタートした平成12年から県内14地域で協議会が発足し、それぞれの地域で様々な活動を展開してきました。その後、平成15年6月14日に県協会が設立され、平成21年11月1日には一般社団法人となりました。現在約1850人の会員となっています。

本協会では、委託事業として介護支援専門員の専門Ⅰ・専門Ⅱ・主任の全研修と更新研修を6月から12月まで実施し毎年1200名以上の方々が受講しています。協会独自の事業としては介護予防従事者研修、公開講演会、会員研修、キャリア形成支援事業の出前講座、災害支援リーダー及び災害支援カマネジャー養成研修を実施しています。

今年度は、消費税増税に伴い介護報酬増加改正と介護職員への特定処遇改善加算も発表されました。全員が一律に増額するものではありませんが、プラスに捉えていくことが必要です。

また、ケアプラン作成を支援するAI化も始まっています。自立型ケアプランの指標をパターン化して示すものです。ケアプランを自動作成してくれるからカマネはいらなくなると誤解されている方もいます。カマネは、地域の社会資源を有効に活用して本人の意向を尊重した適切なプランにコーディネートすることや希望する終活に向かって相談しながら良きパートナーとなり支援していくため必要不可欠です。

福島の再生と復興が問われている今日、要支援・要介護者の増加・介護等職員の流出、人口動態の変化、生活基盤の再構築など地域ごとに異なる課題が山積みです。本協会の活動も、そして何らかの支援を必要とする生活者へのサポートを大切に、私たち職能団体だからできること、しなくてはならないことを見極めて前進していきたいと思っています。

さて、私事ですが、初代丹治伸夫会長の後任として平成21年から今日まで会長職を務めさせていただきましたが、平成31年度役員改選を機に会長職を退任させていただきます。地域の皆様によって支えられてきた本協会の歩みを大変に誇らしくも感じております。10年間支えて下さった福島県介護支援専門員協会の会員並びに役員の皆様方、並びに関係機関の皆様のご支援のおかげで無事に勤めることができました。心より感謝申し上げます。今後は、止まらず動き回っていた鮪の人生に一区切りを入れて少しのんびりと第二の人生を送っていくつもりです。最後に、今後ますます福島県介護支援専門員協会が発展することを祈願いたしましてご挨拶とさせていただきます。

目次

- 巻頭言..... 1
- 福マネットリレー“結”..... 2
- 災害対策グループ関連..... 2
- 公開講演会..... 3
- 第21回介護支援専門員実務研修受講試験の結果... 4

ハイライト

- ◆今季限りで勇退する千葉会長から皆様へ。
- ◆相馬方部の“結”。
- ◆平常時の具体的な取り組みの重要性を学ぶ。
- ◆いわき市でmasaさんと看取り介護を考える。
- ◆合格率は7.6%。実務研修受講試験を振り返る。

福マネット リレー



相馬方部介護支援専門員
連絡協議会

会長 愛 澤 俊 行

相馬方部介護支援専門員協議会は、相馬市と新地町の介護支援専門員で構成され、現在は約40名の会員により、年1回の総会と研修会を中心に活動していますが、業種的にも人の出入りが少なく新たな介護支援専門員が入会していないのが現状です。また、地理的に県内各地で開催される研修に参加できる機会が少ないこともあり、研修会は、全国区で活躍する講師を招いて、会員が参加しやすい平日の夜に開催するのが恒例になっています。

さて、相馬方部における居宅介護支援の現状としては、震災以降は介護支援専門員の入れ替え等が影響し、時期によっては利用を待機していただくこともあり、介護支援専門員不足は否めません。介護サービス事業所は地域密着系の新たな事業所が増えており、相馬市内にも初めてショートステイ専門施設やサービス付き高齢者向け住宅ができ、利用や入居も始まっていますが、職員の定着が関係者の懸念するところ



と聞いております。

と聞いております。

地域の相談内容としては、問題の複雑化や家族関係の真に迫った相談が増えていると感じています。震災後、皆様が心配していた「高齢者単独世帯」「高齢者と障がい者世帯」「精神疾患」「ゴミ屋敷」「介護拒否」等の課題が複雑に生活に絡み合った状態で介護支援専門員が関わることが増えてきているのです。このような中で、地域包括ケアシステムの構築にも目を向けながらの活動や地域ケア会議、個別会議等への出席も増えており、居宅介護支援の業務とは別に介護支援専門員の負担というものは格段に増えていると感じています。

震災から今日に至るまで、皆様のご支援をいただきながら相馬方部の復興に向け取り組んできましたが、震災以前の相馬市・新地町を目指すのではなく、新たな、そして何よりも住民にとって「ここで生活して良かった」と感じてもらえるような地域を創りたいとの思いで日々取り組んでいるところです。

今後も県内の皆様のご支援等をいただきながら、精力的に活動し質のいい協議会を目指してまいりますのでよろしくお願い申し上げます。

災害支援リーダー& 災害支援ケアマネジャー養成研修

災害対策グループ 竹田 匡志

平成30年11月29日、災害発生時に地域や事業所などで率先して支援を行うケアマネジャーの養成を目的として、福島県介護支援専門員協会が主催し初となる「災害支援リーダー&災害支援ケアマネジャー養成研修」を、ビッグパレットふくしまで開催いたしました。当日は93名の当会会員が参加。1日の本研修を受講し、新たに福島県介護支援専門員協会が認定する「災害支援リーダー」が80名、日本介護支援専門員協会が認定する「災害支援ケアマネジャー」(日本介護支援専門員協会に加入している方が対象)が13名誕生しました。

本研修では、発災時の「行動」や「連携」を机上訓練形式で実践的なシミュレーションをしながら学んでいきました。参加者全員が東日本大震災の経験者ということもあり、「その大震災の経験を活かして発災時の支援・防災方法を学びたい」と、非常に熱気あふれる研修となりました。

研修中、講師から「平常時」の「具体的」な取り組みの重要性について説明があると、多くの参加者が大きくうなずいていました。私

たちはどうしても災害発生後の対応に関心が向きがちですが、災害発生時の行動指針の整備、ハザードマップや避難場所の確認にとどまってはいただけません。利用者を取り巻く環境や社会資源の情報整理など、平常時から具体的に準備しておくことが最も重要だということを学びました。今回学んだことを受講者と共に今後に生かしていきたいと思います。

未曾有の大災害を経験した私たちだからこそ、介護支援専門員としての専門性を発揮しつつ災害発生時にできることがあると思います。この「災害支援リーダー&災害支援ケアマネジャー養成研修」は今後も開催していく予定です。皆さまの奮ってのご参加をお待ちしております。



一般社団法人 福島県介護支援専門員協会平成30年度 公開講演会

サニーポート小名浜 丹内 美樹男

平成30年10月13日(土)午後2時から、いわき市文化センターにて、北海道介護福祉道場代表 菊地雅洋氏を講師にお招きし、「看取り介護を通して考える」と題してご講演頂きました。

いわき市内で活動する介護支援専門員や、市内高齢者施設から、介護・看護職の参加、一般の方も含め県内各所からの参加も多数頂きました。

菊地氏のこれまでのご経験等を通して、感じ考えてこられた事を基に、孤独死の問題や、人が死を迎える過程での終末期医療の在り方や考え方等や、その方らしく最期を迎える事ができる様に、介護



支援専門員の役割として、その方自身の思いや、残される家族

の思い等を、如何にして支え、思いを形にして差し上げられるかを考え実践していく事が、「求められているのだな」と再認識しました。

私自身、特養勤務の中で、幾度も看取りの場面を経験してきた事や、ご家族と接する場面も多々あり、最期のお顔を拝見する度に、「これで良かったのかな」と自問自答を繰り返してきた事を覚えています。

看取り介護は、関わる人すべてで築き上げていくもので、互いにどう支え合っていくのか、その方の思いを形にしていくには…等、考える事が多き貴重な時間でした。



-公開講演会に参加して-

(有)ケアプランタロー 竹田匡志

菊地雅洋先生の講演を聞くのは、今回で2回目。前は震災直後ということもあり、被災した福島県のケアマネジャーに対するエールという意味合いが強い講演でした。

今回の講演は、最期の時間を「生きる」ことを支えることが、私たちケアマネジャーにとってどういう意味を持ち、どのように考えて支援していくべきなのか、その根本となる考え方を示したものでした。

講演の中で特に心に残ったのは、「最期のその瞬間を寂しくさせない」という言葉でした。自分が今まで対応した看取りのケースを振り返り、これを実践し実現できたのだろうか考えてしまいました。自分としては一生懸命に考えをめぐらし、同僚や支援事業所の方々とも相談しながら支援し

たはずなのです。でも実際にはどうだったのでしょうか。苦痛軽減と介護負担感軽減に意識が集中したために、ご本人が孤独感を感じないような、そんな心に寄り添う関わりができていたのか。看取り介護に携わる際の私自身の心のあり方を深く考えさせられることとなりました。

また講演の最後に「人生の最終ステージでの“生きる”姿をいかに支えるのが、看取り介護の最も大事なことだ」という先生の言葉がありました。利用者の最終ステージの生きる姿、その生命を通じて、私たち支援者としてのあり方だけでなく、ひとりの人間としての生き方を学ばせて頂いているのだと言うことが分かり、看取り介護への取り組み気持ちを新たにすることができました。

第21回介護支援専門員実務研修受講試験の結果について

全国平均10.1%に対し、福島県は7.6%。これまでで最も低かった2016年度の11.9%を下回る結果に終わりました。

受験者数の大幅な減少には、受験資格が新たに厳格化されたことが大きく影響したとみられますが、専門性を高めるといって制度改定の度に求められる責任や研修量の増加による負担の増加と介護職員処遇改善加算の浸透による介護福祉士の賃金が上昇により、キャリアアップを望みチャレンジする方が減っていることは確かです。

受験者数 972人 (2,352人)

合格者数 74人 (372人)

合格率 7.6% (15.8%)

※福島県介護保険室HPから () 内は昨年度の結果

会員の皆さん、届け出をお忘れなく！

会員の皆さんは、各種の届け出をご存知ですか？

届け出は、次の要件に該当した際に必ず提出をお願いいたします。

- ・入会時の「入会申込書」
- ・退会時の「退会届」
- ・会員内容変更時の「個人会員内容変更届」… 氏名変更・住所変更・所属機関変更・地域協議会変更

上記の届け出は、協会ホームページ右上の「入会方法」をクリックして該当する届出書の様式をダウンロードし、必要事項を記載して各地域協議会へ提出をお願いします。

これらの届け出がありませんと、協会からの文書（研修の手引き、福マネット）等が届かない、退会したのに会費が引き落とされた、などのことが起こってしまいます。

年度末で退会予定の方、新年度に異動、転職、転居等で入会申込書と内容が変更になる方は、速やかに届け出をお願いいたします。

お近くで、本会への入会を希望の方がおりましたら、入会申込書の提出についてご案内くださるようお願い致します。

一般社団法人福島県介護支援専門員協会

企画総務部 地域連携グループ

福島県介護支援専門員協会 ホームページリニューアル

本会のホームページがリニューアルしました。
最新情報及び研修情報がより充実、ブック
マークをよろしくをお願いします。

<http://www.fcma.jp>



発 行：一般社団法人 福島県介護支援専門員協会

会 長：千葉喜弘

事務局：郡山市新屋敷一丁目166番 SビルB号

TEL 024-924-7200 FAX024-924-7202 <http://www.fcma.jp>

広報グループ：仁井田義弘 伊東 靖裕 本名 由美 藤江 眞明 丹内美樹男 清野 公隆

根本 恵実 杉岡 久子 佐藤 裕洋 三本松久美子 齋藤 真尚 佐々木香織